

## 放送ストリーミング情報掲載

### 放送ストリーミング情報【2024No.355】(HP 掲載)

分類：NHK

局等：Eテレ

作曲家：ムソルグスキー他

曲名：禿山の一夜他

演奏：キリル・ペトレンコ指揮ベルリンフィル／アンドリス・ネルソンス指揮ウィーンフィル

関連サイト：NHK Eテレ

2024年10月6日と10月13日の放映です。

ベルリンフィルのワルトビューネコンサートは次のとおりです。

収録：2024年6月22日

ムソルグスキー 交響詩禿山の一夜

プロコヒエフ ピアノ協奏曲1番

ユジャ・ワン (ピアノ)

ラベル 亡き王女のためにパヴァーヌ

ラベル ダフニスとクローネ第2番

ラベル ボレロ

ウィーンフィルのシェーンブルン宮殿コンサートは次のとおりです。

収録：2024年6月7日

ワルキューレの騎行 ワーグナー

タンホイザーから「おごそかなこの広場よ」 ワーグナー

リーゼ・ダヴィドセン (ソプラノ)

モルダウ スメタナ

スメタナ：『2人のやもめ』～ポルカ (第2幕フィナーレ)

スメタナ：『売られた花嫁』～道化のダンス (第3幕)

ヴェルディ：『運命の力』序曲

ヴェルディ：『運命の力』～レオノーラのアリア『神よ、平安を与えたまえ』(第4幕)

リーゼ・ダヴィドセン (ソプラノ)

オルメス：交響的頌歌 (カンタータ)『祖国のための闘い』～間奏曲『夜と愛』

ハチャトウリアン：バレエ音楽『ガイース』～剣の舞

ショスタコーヴィチ：さまざまな管弦楽のための組曲第1番～ワルツ第2番 (アトヴミヤーン編)

(アンコール)

カールマン：オペレッタ『チャールダーシュの女王』～シルヴァのアリア『ハイヤー、ハイヤー、山こそ我が故郷』（第1幕）

ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ『ウィーン気質』 Op.354

リーゼ・ダヴィドセン（ソプラノ）

放送録画の再生は、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に **Crstal EpY-G** をセットしてから初めてです。

ベルリンフィルのワルトビューネコンサートは、常設の野外音楽堂で、客席はすり鉢状になっており、いちおうの音響効果は考慮されており、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に **Crstal EpY-G** をセットした効果で、以前より室内のホールの音質に近づいた印象です。

プロコヒエフのピアノ協奏曲1番は、ユジャ・ワンの圧倒的な演奏技量が冴えています。

ラベルの3曲は、ラベルらしい色彩感溢れる曲が続きます。

アンコール曲はショスタコーヴィッチの組曲ムツェンスクのマクベス夫人からアルグレットでした。

最後は、恒例のベルリンの風で聴衆の手拍子と口笛で締めくくりです。また、掲げたスマホの光を揺らす光景も最近のことです。

ウィーンフィルのシェーンブルン宮殿コンサートは、野外の仮設ステージですので、低音などはホールの響きを期待できませんが、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に **Crstal EpY-G** をセットした効果で、以前より音の粗さが目立たなくなっています。

特に、ソプラノのリーゼ・ダヴィドセンの歌唱は、ワーグナー歌手の本領を発揮し、圧倒的な歌唱力が伝わってきます。

剣の舞では打楽器群が活躍しますし、ショスタコーヴィッチのワルツ第2番では、ウィーンフィルでは見慣れない、サキソフォン、ギター、アコーディオン、鉄琴も加わった編曲です。

ウィーン気質では聴衆のカップルが躍る様子も見られました。

夕暮れ前から薄暮となり、夜の帳が下りるまでの演奏ですが、宮殿、ステージおよび庭園の照明を効果的に使った演出が、曲に合わせた趣向が凝らされていました。

以上

